

## 第13講 平和教育と博物館

### 1. 日本の戦争記憶

#### 1) 古代

白村江（はくそんこう、はくすきのえ）の戦い（663年）。倭・百濟 [くだら] 遺民 [いみん=国の滅亡後の民] の連合 対 唐・新羅 [しらぎ] の連合。倭は敗戦により国号を「日本」に変更。国号変更後の出直しの宣言として唐に示したものが大宝律令（701）と720年成立の「日本書紀」という（加藤陽子 2016 『戦争まで 歴史を決めた交渉と日本の失敗』）。日本という国号自体が敗戦の記憶。

#### 2) 中世

・元寇 文永の役（1274）＝、弘安の役（1281）

フビライが日本に入貢（にゅうこう＝みつぎ物を持ってくる）を求めたが拒否されたため発生、元の大群が博多湾に現れる。西国御家人（家臣）の奮闘と暴風雨（この時を特に神風と呼ぶことあり）によって防御した。福岡市には防塁の遺構が現存し、多民族からなる元軍を描いた絵巻「蒙古襲来絵詞」（宮内庁蔵）も残る。

蒙古襲来絵詞（九州大学の写本） <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/c.php?g=774839&p=5560026>

・豊臣秀吉の朝鮮出兵 文禄の役（1592-1593＝壬辰倭乱）、慶長の役（1597-1598＝丁酉倭乱）

天下統一を果たした秀吉が企てた、朝鮮を支配し明を服従しようとして仕掛けた戦争。その拠点が佐賀県唐津市の名護屋 [なごや] 城で、跡地が佐賀県立名護屋城博物館 <https://saga-museum.jp/nagoya/nagoya-castle/>

日本では秀吉の朝鮮出兵として知られる一方、完全に過去の歴史となっているが、韓国では近代の併合支配と重ね、現代に通じる出来事と見ている。日本と韓国の両方の視点を紹介している名護屋城博物館の常設展示に対し、いわゆるネトウヨと呼ばれる人たちが反応している。例えば下の質問と回答。

佐賀県立名護屋城博物館に歴史歪曲（平成24年10月29日回答） / 唐津市（右図）

<https://www.city.karatsu.lg.jp/kouhou/shise/kocho/ikenbako/20101029-nagoyazyou.html>

#### 3) 近世・近代

日清戦争（1894-1895） 日清講和記念館（山口県下関市） <http://www.shimohaku.jp/page0106.html>

日露戦争（1904-1905） 記念館「三笠」（神奈川県横須賀市） <http://www.kinenkan-mikasa.or.jp>

第一次世界大戦（1914-1918） 遅れて参戦して山東半島を占拠、ドイツの租借地であった青島から捕虜を連行したことから、徳島県鳴門市の板東 [ばんどう] 俘虜収容所では文化交流が生まれる。跡地はドイツ村公園となり鳴門市ドイツ館がある。このときのドイツ捕虜は日本の文化や技術に影響を残し、洋菓子のユーハイムも青島で捕虜として捉えられたドイツ人が開業したもの。

板東俘虜収容所 <https://ja.wikipedia.org/wiki/板東俘虜収容所><https://mainichi.jp/articles/20230816/k00/00m/040/281000c>

鳴門市ドイツ館 <http://doitsukan.com/what.html>

古代中世の戦争は文書や図絵で、近代の戦争は博物館も加わり、その記憶を保存継承している。現在の日本では上皇陛下の「わすれてはならない4つの日」が象徴 <https://www.kunaicho.go.jp/about/gokomu/odemashi/irei.html>

戦後生まれの天皇陛下 追悼式のおことばに込めた思いとは | 毎日新聞 [kyoiku2023\\_13--4.pdf](https://mainichi.jp/articles/20230816/k00/00m/040/281000c)

<https://mainichi.jp/articles/20230816/k00/00m/040/281000c>



佐賀県立名護屋城博物館に歴史歪曲(平成24年10月29日回答)

**ご意見・ご提案**

佐賀県教育委員会、佐賀県立名護屋城博物館を開設し、韓国を元にした日本軍、特に秀吉にまつた子供達に歪曲した日本の近現代史の歴史を学ばせ自虐に導かれている。又、佐賀県教育委員会が名護屋城博物館内に歴史歪曲として、作成し展示されているもので、年表の出発点を確認して頂き、歴史の検証を今後どの様にされるのかお伺いしたい。

佐賀県立名護屋城博物館の総合案内書の62、63頁、1868年～1958年の年表を、佐賀県教育委員会が歪曲している。

- 「1895年明治28年秋朝鮮、日本の軍人らにより殺害される」
- 「1942年伊藤博文八日ビラで徹底空襲被害者と共に写真に載せる」
- 「大正12年朝鮮文藝家団体の設立 - 朝鮮人招待」
- 「昭和15年前に改名(支那、日本式改名を強要)」
- 昭和19年「女子挺身隊がアジアの女性各地へ派遣された」として記される
- 女子挺身隊が「女子挺身隊がアジアの女性各地へ派遣された」として記される
- 「日本の戦後と同時に日本国内で朝鮮連帯者とされた朝鮮人」年表内記載無し
- 「昭和26年1月竹島の日没」年表内記載無し

地元の子供達に歪曲した歴史を教える佐賀県教育委員会が唐津市のためになるのか。又、唐津市教育委員会はなにをしているのか。教えず頂きたい。

**お答えします**

名護屋博物館は、日本列島と朝鮮半島の、戦国時代からの異文化交流の歴史を展示・紹介する施設として、平成24年開設いたしました。

中でも、文禄・慶長の役という遠征の不幸な戦争の反省に立ち、名護屋城跡を日本列島と朝鮮半島の異文化交流の場とする。その歴史的意義付けを明らかにすることによって、今後の日韓関係の交流・友好の推進にもなることを目指して参ります。

佐賀県立名護屋城博物館には、国内外から多くのご来場が実施されておりますが、唐津にはおましても、韓国の関係者や韓国の関係者など、地域にむかひつなご来場もイベントを協力してまいりました。

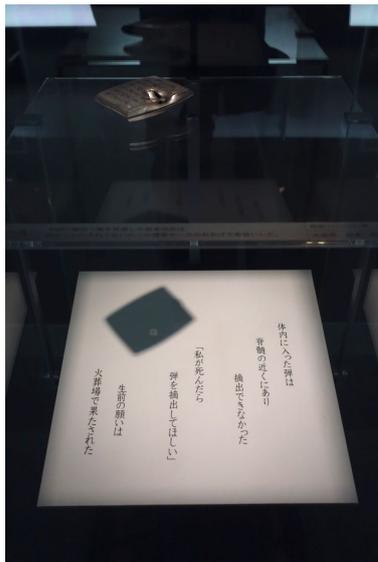
ご意見・ご提案、また日本の教育誌等も考慮しながら、多角的な視点で検証を行い、現在の内容に努めていることとしました。

唐津市にいたとしても、名護屋博物館が多岐の知識をいただいた成果の一つとして、受け止め参ります。また、名護屋博物館では、今後さらに新たな資料の掘り起こしをおこない、企画の皆さんからお寄せいただく情報なども参考に、調査研究を進めてまいりたいと考えています。

歴史に対する考え方は、あるいは人によっても異なりますが、日本列島と朝鮮半島の両方への異文化交流の歴史があることは事実です。唐津にいたとしても、韓国の思いがゆえに、今更にも文化交流の場を創っていくことが大切だと考えております。ご理解いただければ幸いです。

リンク切れ

左：千鳥ヶ淵戦没者墓苑。総理大臣はじめ閣僚が献花している 右：靖国神社の境内にある遊就館



上と中央2枚：しょうけい館  
 右上：昭和三館（中央やや左）。  
 通の奥に靖国神社の鳥居が見える  
 右下：平和祈念展示資料館

## 2. 太平洋戦争の記憶と記憶施設

### 1) 東京九段下

武道館のある皇居北の丸公園の周囲には靖国神社のほか、国立の戦争の記憶追悼施設が集中している。

#### 千鳥ヶ淵戦没者墓苑（無名戦没者の墓）①

#### Chidorigafuchi National Cemetery

[https://www.env.go.jp/garden/chidorigafuchi/1\\_intro/index.html](https://www.env.go.jp/garden/chidorigafuchi/1_intro/index.html)

無宗教の国の追悼施設。身元不明や引き取り手のない遺骨を安置する。環境省が管理、慰霊行事は厚生労働省が主催する。清掃などは（公財）千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 <http://www.boen.or.jp> がおこなっている。

遊就館② Yushukan Museum 戦闘の歴史 <https://www.yasukuni.or.jp/yusyukan/>

靖国神社の境内 [けいだい] にある博物館。戦争司令部の視点で描く戦史戦闘の展示であり、被害者意識は目立



たない。かといって加害者意識も反省も見られない。展示室は撮影禁止。

昭和館（厚生労働省）③ National Showa Memorial Museum 銃後の生活 <https://www.showakan.go.jp>

戦争中の暮らしの記録。空襲についても、防火訓練や防空壕などそれに備えた暮らしを描く。武器や戦闘はでてこない。子どもの展示も多く、学校利用を相当意識した内容になっている。展示室は撮影禁止。

しょうけい館（厚生労働省）④ The Shokei-kan 兵士の戦闘 <https://www.shokeikan.go.jp>

傷痍〔しょうい：傷や怪我〕軍人の戦争と戦後の体験を展示する。地味なテーマでビルの一角を占めるだけの施設。他方、展示は素晴らしく、実物資料や当時の写真が生々しく、展示の方法も印象的。展示室は撮影禁止。掲載した写真は許可を得て撮影したもの。

## 2) 空襲と原爆

東京都復興記念館 <https://tokyoreikyokai.or.jp/index.html>

関東大震災（1923（大正12）-9-1）と東京大空襲（1945（昭和20）-3-10）の被害状況を展示。関東大震災で最大の被害地となった陸軍被服廠〔ひふくしょう〕の跡地に建てられた慰霊施設「震災記念堂」（現・東京都慰霊堂）の付帯施設として開館した。両施設ともに東京大空襲の被害者や資料が加えられた。展示は震災部分を含め古く、おそらく当初のまま（第2講：展示の解剖学「グラフィックパネル」を参照）。

広島平和記念資料館（原爆資料館）右写真 <http://hpmmuseum.jp>

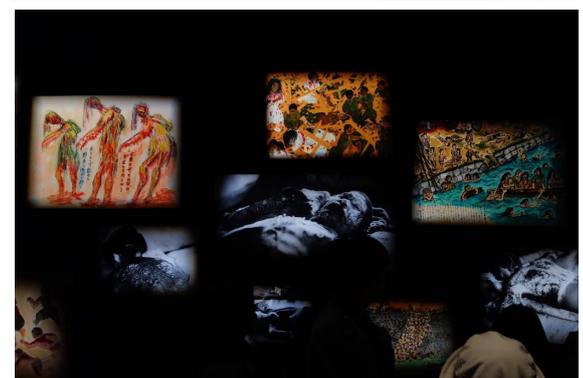
開館当初の展示は本館（西側）部分だけで、原爆の被害者や遺族が持ち寄った手作り感あふれる内容だった。その後、新館として東館が増築された。この部分は模型や演出造作が目立つ作りだった。細長い建物のため強制動線となっている。現在の展示は2019年4月に公開された。新しい展示は、被爆者や犠牲者の遺品が主体としたのは過去と同様であるが、ストーリーの中心に個人のエピソードを据え、賛否両論があった人形に代えて被爆時の絵を展示、個人の視点から原爆の絶対悪を訴える。無邪気にはしゃいでいた外国人を含め展示室を進むにつれ話し声が少なくなり、展示室を出る時には全員が無言となる。リーフレットは12か国語が用意され、世界に向けてメッセージを発する博物館である。

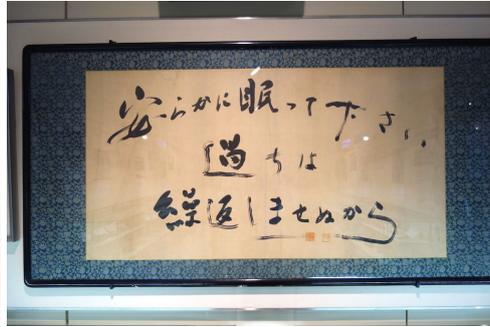
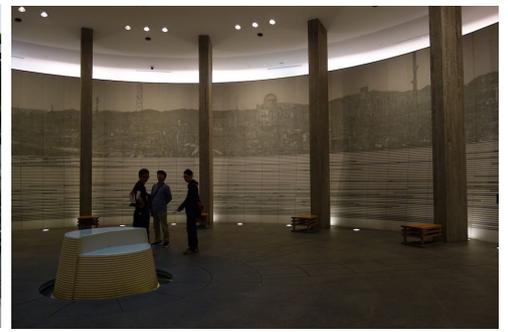
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（厚生労働省）

<https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp>

国立の慰霊施設。メインの展示室は空っぽの空間。犠牲者や慰霊を表現することの難しさにも見える。おもな事業は、広島・長崎の被爆体験記の収集、それによるビデオ制作。多言語対応は原爆資料館よりも進んでおり23か国語が用意されている。一方、ウェブページは日英中韓の4か国語に留まる。

長崎には国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が置かれている。海外原爆展を開催。リーフレットは18か国語。  
<https://www.peace-nagasaki.go.jp>





上段 左：広島平和記念資料館（通称：原爆資料館）、中と右：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館  
下段 本川小学校平和資料館

本川小学校平和資料館 <https://dive-hiroshima.com/explore/2674/>

現用の小学校の旧校舎（それ自体が被爆建物）に原爆や原爆資料館に関係した資料が保存展示されている。一般見学も可能。平和公園の石碑に刻まれた「過ちは繰返させぬから」の原書など。

長崎原爆資料館（右写真） <https://nabmuseum.jp>

展示は原爆投下直後の被災状況の実物大ジオラマと当時の映像から始まる。視聴覚による疑似体験の後、自主的な学習を促す展示となる。リーフレットは7か国語。



### 3) 沖縄戦

激しい地上戦で県民の4人に1人が犠牲になった沖縄戦の記憶を伝える。

ひめゆり平和祈念資料館（公益法人） 同窓会が設立

沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女子学校の卒業生が設立。卒業後は教員となる知性と行動力がある女性が集う学校が基礎になっていたからこそ設立運営継続が可能だった。次の沖縄県平和祈念資料館との競争が心配されたが、生徒学生時代の実体験を中心にして独自性を打ち出している。 <http://www.himeyuri.or.jp/>

沖縄県営平和祈念公園（指定管理者：沖縄平和祈念財団） <https://heiwa-irei-okinawa.jp>

県立施設なので客観的で宮古・八重山、大東島の状況も伝える。公園には、沖縄県平和祈念資料館、沖縄県平和祈念堂、国立沖縄戦役者墓苑（厚生労働省）などがある

### 4) 抑留と引揚げ

平和祈念展示資料館（総務省） <https://www.heiwakinen.go.jp>

西新宿の高層ビルにある。在外兵士も対象とするが、中心は引揚げと抑留の展示施設。兵器はほぼ出てこない。抑留とは戦前の海外領土などで終戦を迎え、敵国軍に強制的に留め置かれることをいう。行政職員のように通常業務を継続した場合もあるが、強制労働に従



平和祈念展示資料館の展示室

事されられた例も多い。先の大戦の場合、強制抑留を課した敵国軍とはソ連軍であった。抑留者は約60万人でその1割が抑留中に死亡した（下資料）。

強制抑留の実態調査等に関する基本的な方針 <https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/senbotsusha/torikumi/dl/120712-01.pdf>

舞鶴引揚記念館（市立） Maizuru Repatriation Memorial Museum

<https://m-hikiage-museum.jp> 先の大戦の終了後、海外領土や統治地域に居住していた日本人や軍人が現在の国土に戻ってきた。これを居住者は引揚〔ひきあげ〕、軍人の帰還は復員といい両者はほぼ同数で合わせて660万人余りであった。引揚港は全国で18あり人数では博多や佐世保が130万人超と最多であるが、京都府北部の日本海に面した舞鶴港はもっとも遅く1958（昭和33）年まで引揚船を受け入れたことから、引揚の象徴の場所となっている。



舞鶴引揚記念館の展示室

写真多数の詳しいレポート <https://www.uminokyoto.jp/feature/detail.php?spid=75>

ユネスコ世界記憶遺産（舞鶴引揚記念館収蔵資料）～忘れないでほしいあの日の日本～ | 特集 | 海の京都観光圏

世界記憶遺産は通称。正しくは「世界の記憶」 <https://www.mext.go.jp/unesco/006/1354664.htm>

### 3. 原爆の記録映像と映像作品、水爆被爆の展示

#### 1) 米軍撮影の原爆投下映像 広島はモノクロ、長崎はカラーの映像。

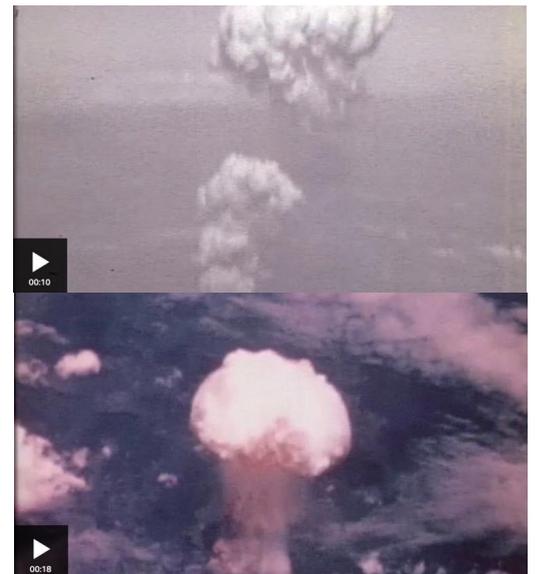
日本国による原爆被害に関する公式ウェブサイトは見当たらない。とくにネット映像は広島と長崎がごちゃまぜになったものも見られ、正しい情報に行き着ける仕組みが必要。広島と長崎の正しい原爆投下映像をわかりやすいタイトルで提供しているのはイギリスの公共放送BBC。

広島原爆投下の映像 - BBCニュース <https://www.bbc.com/japanese/video-53660358>

長崎原爆投下の映像 - BBCニュース <https://www.bbc.com/japanese/video-53660360>

行政では広島市がページを用意しているが簡単な記述で映像がない。詳しくは「ヒロシマ・ピース・サイト（広島平和記念資料館ホームページ）をご覧ください」とあるが、下方のリンクは原爆資料館のトップページで迷子になってしまう。

原爆被害の概要 - 広島市公式ホームページ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/9399.html>



#### 2) 原爆の映像作品

映画「ひろしま」（1953） [https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/article\\_19.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/article_19.html)

原爆の被災体験、その後の後遺症や差別の記憶を大々的に映像化、広島市民8万人がエキストラとして参加し、1955年にベルリン国際映画祭長編映画賞を受賞した作品。しかしアメリカを非難する内容が含まれ、日本教職員組合（日教組：につきょうそ、学校教員の職員組合）の制作であったことも影響して大手映画会社が配給を拒否、上映中止に追い込まれた。デジタル修復した映像が全国の小規模劇場で上映され、テレビ放映されたのは2019年。意図に反して記憶の継承が妨げられた例。



映画「ひろしま」の1シーン

[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:F0160671\\_1852990.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:F0160671_1852990.jpg) 日本教職員組合

### 3) 水爆実験による被害

<http://d5f.org>

都立第五福竜丸展示館 Daigo Fukuryu Maru Exhibition Hall

第五福竜丸は1954（昭和29）年にマーシャル諸島のビキニ環礁でアメリカの水爆実験で乗組員23人全員が被爆し、後に1人が死亡した。東京都江東区夢の島にある。見学者は外国人の方が多い。同船は全長30mと現存する最大の木造船としても貴重な存在。



### 4. まとめ

日本の戦争関連の展示施設は、被害者の視点が目立つ。このことに対し、反省や加害者の視点が欠けているという意見がある。それは正しい。しかし、たとえば戦死した兵士の家族に向かって、「でも、あなたのおじいさんは罪の無いアジアの人たちに銃を向けた人殺しなんですよ」と言えるだろうか。兵士一人一人の戦争体験や戦後経験を伝える施設と、国家としての戦争の総括をおこなう施設は分ける必要がある。つまり、国が戦争を総括する博物館が必要である。日本にはこれが欠如している。

多くの施設は平和への祈りを主題にしており、戦争体験を次世代に伝えることを使命としている。終戦から四半世紀 [75年] が経ち、直接の経験者は少なくなり、それも大多数が子ども時代の記憶に限られる。経験者が居なくなるのは時間の問題である。そこで多くの施設では語り部を育成することに尽力しているが、体験なき語り部は可能か、それに代わる方法はあるのか。語り部の養成とは、つまりはイタコ（霊媒者）の育成なのか？

歴史や戦争の学習や理解は作品をとおしておこなわれてきた。感情移入がその方法だったといえる。最近であれば海軍の拠点であった広島県呉市を部隊にした「この世界の片隅に」（「漫画アクション」連載（この史代 2007-2009）、アニメ映画2016）がそれにあたる。語り部の話を聞く学習も感情移入による理解といえる。

これからの戦争博物館や記憶継承は、客観的な資料から観覧者が自ら戦争や戦闘、被害を理解していける展示を目指すことが必要と考える。語り部は作品型教材（左図）である。そこから素材型教材（右図）に代えていくべきで、語り部は主体的な理解を補佐する役目になると考える。

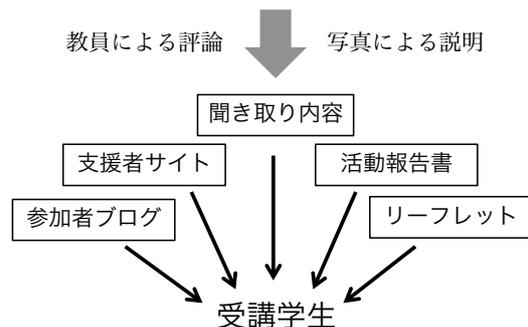
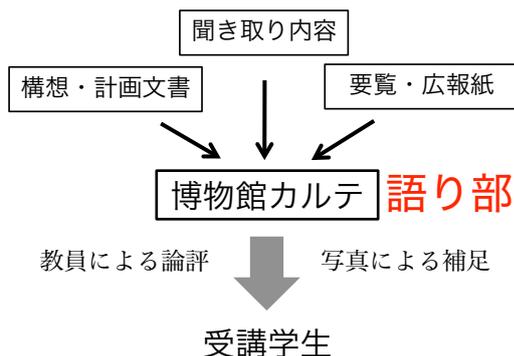
戦争の語り部を育てる—ひめゆり平和祈念資料館 | テンミニッツTV [https://10mtv.jp/pc/column/article.php?column\\_article\\_id=1975](https://10mtv.jp/pc/column/article.php?column_article_id=1975)

引き揚げの記憶、若者にバトン 京都・舞鶴、増える「学生語り部」 | 京都新聞 <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/687897>

[リンク切れ](#) [kyoiku2023\\_13-3.pdf](#)



舞鶴引揚記念館の語り部養成講座 <https://m-hikiage-museum.jp/contents/?p=7887>



学生自身が博物館の物語りを組み立てる  
**学習者自身による追体験**

作品型教材（左）と素材型教材（右）

宇仁義和. 2011. 地方博物館の評論とその教材化. 全博協研究紀要, 13: 23-35.